

2021年1月30日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

産業看護職が直面する倫理的課題に関する文献検討

A Literature Review on The Ethical Issues

Faced by Occupational Health Nurses

19MN015

氏名 島本 絢実

要旨

「目的」本研究は、産業看護職が日々の保健活動のなかで直面する倫理的課題について、文献検討を行い、産業看護職が日々の保健活動のなかで直面する倫理的課題の内容について明らかにし、産業保健活動における倫理的課題への対応について示唆を得ることを目的とした。

「方法」医学中央雑誌 Web では「産業看護職」、「企業/産業保健」などのキーワードを用いて、PubMed では「occupational health nursing」「occupational health」「nurse's role」などのキーワードを用いて、検索し、条件に合致した 9 文献を分析対象とした。産業看護職が日々の保健活動のなかで直面する倫理的課題に関して記述された内容について、コードを抽出し、質的に分析を行った。

「結果」産業看護職が直面する倫理的課題は、【産業看護職としての技術や能力の未熟さの自覚から生じる困難感】、【関係各種との連携・調整において生じる困難感】、【従業員へ公平な支援ができない、従業員の不利益が生じる状況において感じる割り切れない思い】、【企業組織における健康管理の位置づけが低い、従業員の産業看護職への理解不足があり、思うような保健活動ができないことへの苦悩】、【個人情報・プライバシー保護や守秘義務と会社の安全衛生義務とのバランスのとれた対応における苦悩】、【産業看護職の専門性や存在意義に対する葛藤】、【企業組織人と専門職業人の対峙によって生じるジレンマ】の 7 つのカテゴリーが構成された。

「結論」産業看護職の倫理的課題は、産業看護職の日々の保健活動に内在しており、困難感、割り切れない思い、苦悩、葛藤、ジレンマといった内容が示された。産業看護職は、倫理的課題に直面しながらも、日々の保健活動のなかで、倫理的検討を繰り返し、倫理的感受性を高めていることが示された。また、産業看護職が倫理的課題を経験することは、産業看護職として専門性を高め、醸成し、産業看護職としてより良い実践を探究していくための非常に重要なプロセスであるということが考察された。また、産業看護職が直面する倫理的課題は、決して産業看護職個人の課題ではなく企業組織における課題であることが推察され、組織における体系的な取り組みが必要であることが考察された。